

令和2年3月発行

## 令和2年2月14日仙台市で開催された全国セミナーに協議体委員2名、包括職員2名が参加しました！

**第4回**  
**宮城発**  
**これからの福祉を考える**  
**全国セミナー**  
 ～誰もがどんなときでも自分らしく暮らしていくためには～

**日時** 令和2年2月14日(金) 10:20～16:00  
**会場** 太白区文化センター 楽楽ホール  
 (仙台市太白区長町5-3-2)  
**対象** 自治体関係者、地域包括支援センター職員、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、介護・福祉事業従事者、生協、農協、商工業者、NPO、各種ボランティア、自治会・町内会などの地域組織のリーダー、復興支援従事者。

宮城県各地の特色ある地域づくりの取り組みを学ぶことができました。東日本大震災からの復旧・復興を通して、地域の繋がりや支え合いの重要性を再確認し、それが地域支え合いの体制づくり推進の大きな力となっています。今では、たくさん笑顔と共に、各地にお宝(通いの場)が広がっているそうです。

**第1部 その1 【お宝探しと地域歩き】**

<p>南三陸町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 芳賀裕子氏 千葉ユミ氏</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■サロンまわりから一歩進んだお宝探し</li> <li>■在宅と施設のあいだを広げる関わり</li> <li>■被災者支援から地域支援へ</li> </ul>	<p>仙台市秋保地域包括支援センター 生活支援コーディネーター 添田拓三氏</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■包括職員としてのコーディネーターの活動と苦悩</li> <li>■農村部や温泉街と地域特性が豊かな地域での活動とは</li> </ul>
---	--

**第1部 その2 【協議体ってどう進めるの?】**

<p>角田市社会福祉協議会 主幹兼地域福祉係長 兼生活支援コーディネーター 岡本圭一郎 氏</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■協議体参加者が自分事と思えるための工夫</li> <li>■みんなで話し合える場になる工夫</li> </ul>	<p>淡路市社会福祉協議会 事務局次長 岩城和志氏</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■すでにある協議の場への関わり方</li> <li>■人と人が出会う場を生み出す工夫</li> </ul>
--	--

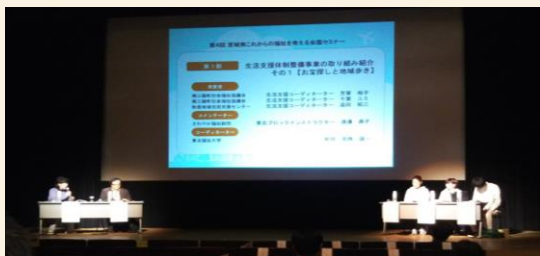
**第2部 【地域共生社会に向けた地域づくり～共に生きる社会の実現に向けて～】**

<p>つるがや畑プロジェクト</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■2015年12月から復興住宅に住民の入居が始まり、復興公営住宅のウエルカムパーティーで何かしたいと話そうに始まったプロジェクト。</li> <li>■畑作業のなかで出た住民の希望や困りごとをキャッチし、地域包括支援センターなどと連携しながら地域生活の改善につなげている。楽しく続けていけることを大切に活動を紹介いただきます。</li> </ul>
<p>栗原東お茶っご会</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■2012年、主婦の有志が設立し毎月第3日曜日に開催。ただのお茶っご会ではなく、気兼ねせず、「あれしたい」「ここに行きたい」と何でも話せる場。</li> <li>■お茶っご会での会話の中から、住み慣れた地域で自分たちらしく暮らし続けるという願いを叶えた事例を紹介いただきます。</li> </ul>
<p>気仙沼市踏切手前のお茶処</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■気仙沼市太田地区の踏切り近くにある「西城鮮魚店」。十坪ほどの店内には椅子とテーブルが置かれ、常連たちが入れ替わり立ち替わりお茶のみを楽しむ。</li> <li>■鮮魚店が支え合いの拠点となり、何気なく行われる雑もがどなどときでも自分らしく暮らすための工夫を紹介いただきます。</li> </ul>
<p>塩田学区住みよいまちをつくる会</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>■1980年から発足した住民自治組織。簡単な地域環境をよくする取り組みから始まり、現在は子どもから高齢者まで地域づくりに関わり、住んでいてよかったと思える地域を目指し、住民主体の活動を続ける。</li> <li>■活力が衰えない組織力。長く続けられている工夫や住民同士で続けるコツを紹介いただきます。</li> </ul>

## 全国セミナーに参加しての感想

### 【 協議体会長：鈴木 武子 】

栗原市の「東お茶っご会こんなところ」はお茶っご仲間の二つの願いが達成された事例でした。ひとつめは、施設に入所した仲間の「自宅に戻って畑をしたい」という願いを何とか叶えてあげようと施設に訪問して支え、ついに自宅に戻れた例。ふたつめは、89歳の方の「私も綺麗でいたいなあ」の一言から計画されたお化粧教室。みんなが知恵を出し合い、支え合い工夫することによって、高齢者の生きがいづくりが達成されたことは、本当に素晴らしい、やれば出来るを実感させる発表例でした。大変勉強になり参加してよかったです。



### 【 協議体副会長：渡辺 均 】

1. 人と人が集まれば、そこには必ず何か生まれる。新しい繋がりや次への期待感が生まれる。つながり、つなげることから始まることの大切さを再認識しました。
2. 今回の学習から学ぶこと、それを生かすことが必要であり、求められていることだと思っています。
3. 事例にある通り、お宝探しは、地域にあるものを見出しながら対人信頼関係を築くうえで、大変良いことだと思いますし、また、実践している地域の人たちのエネルギーは素晴らしいものがあると思いました。
4. これらを通して、自分のため・家族のため・地域のために、現在与えられていることを生かすための努力を通して、貢献をしていきたいと思っています。



# 生活支援体制整備事業～今年度の振り返り～

## サロン訪問



## 通いの場創出4カ所



## 広報3回発行



## 協議体会議4回開催

## 協議体主催 昼食会3回開催

## 住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を目指して

○今、私たちの住む地域でも、少子高齢化・人口減少に伴い、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯が増加するなど、高齢社会への対応は大きな課題となっています。そのような中で「人とのつながり」「自分の通いの場や役割があること」が大切であり、目標にしてみました。

○「通いの場（サロン・カフェ・集いの場）ってどんなもの？」

通いの場とは、住民同士が気軽に集い、一緒に内容を企画し、活動内容を決めて交流しながら「生きがいつくり」「仲間づくり」の輪を広げる活動。介護予防につながります。場所は公民館や個人の家、みんなが通いやすい場所になります。

○「気軽に」「無理なく」「楽しく」

仲間とおしゃべりして、笑って一緒に過ごすことが、認知症予防や介護予防、孤独防止につながります。

○参加者がやりたいことを楽しむ！それが、通いの場！そこから支え合いが生まれます。

° + ✧ **広げてみませんか？仲間づくり「通いの場！」** ✧ + °

～編集後記～ 今年度もたくさんの方々のおかげで、3回発行することができました。今回の全国セミナーで学んだことは、来年度に活かして協議体委員と共に頑張りますので、よろしくお願いいたします。

(斉藤)

(事務局)  
東通地域包括支援センターひだまり  
秋田市東通仲町4-1アルヴェ5階  
(TEL)018-884-1405